

シリーズ お温習い（おさらい）しましょう！

高校再編の後期計画（2021年度からの5年間）の策定に向けた地域検討会議の第2回目が各地で開催されました。高教組の、高校再編に対する運動には長い歴史があります。

第8回 「高校再編」

☆県教委は、97年9月の県立学校長期構想検討委員会最終報告を受け、98年5月、10年間の県立学校新整備計画を出し、00年からの5年間で10校51学級の削減をすると発表しました。

→これに対し高教組は「岩手の高校教育を考える委員会」を設置し、県内各地で学習会や地域フォーラムを開催したり高校教育改革学習資料を発行する等、県民全体で高校再編問題を考える気運の醸成をはかりました。

☆99年5月に県教委は、「県立高等学校新整備計画案」を突如公表しました。

→これに対し高教組は、岩教組・自治労と「高校再編問題対策連絡会議」を発足させ、「高校教育改革中央集会」「高校再編を考える県中央集会」の開催や、本部・支部代表による県教委交渉、県議会要請などにとりくみました。

その結果、10月の県議会で新整備計画の見直しにつながる「県立高校整備に関する決議」を全会一致で可決したことと、県知事が「決議を重く受け止め、地域ごとの議論を深める」ことを表明するなどの成果を上げました。

☆00年1月に県教委は、臨時教育委員会で「県立高等学校新整備計画」の「成案」を決定し、10月には「01年度県立高校再編計画」で12学級の削減を発表しました。

☆04年1月には「県立高等学校新整備計画後期マスタープラン」で、「2学級未満は原則統合・分校は統合・新しいタイプの学校運営の導入」公表しました。

☆04年8月には「県立高等学校新整備計画（後期計画）案」で04年からの5年間で18校を統廃合、その後も40校を統廃合の対象にすると発表しました。
→この間「高校再編問題対策連絡会議」は声明や見解を発表し、県教委や県民に訴えながら04年11月の「高校再編を考える宮古地区会議」「高校再編を考える県民集会」（盛岡）で、県民合意を基本に運動を展開しました。

こうした世論に後押しされる形で、

☆05年1月、県教委は、後期計画の「調整案」を発表しましたが、3月には知事から「地域議論が不十分」との意見が出るなど、成案の年度内発表ができませんでした。

☆05年6月、県教委は「県立高等学校新整備計画（後期計画）再調整案」を発表しましたが、7月の教育委員会では統廃合基準が緩和されました。

5月11日に開催した「地域と教育を考える県民フォーラム」でも地域の方々から多くの意見を頂きました。高教組は今後も地域とともに、ゆたかな教育の保障に向けたとりくみをすすめます。